

「道徳の時間」の指導について (3)

—振り返り—

庄子 豊

はじめに

「道徳の時間」の授業展開の中で、一番大切な段階はどこだろうか？

もちろん、どの段階も大切なものであることは当然なことだが、展開後半の「振り返り」が最も大切な段階であるといえる。

「事前の指導」も、「導入」も、「展開前半での資料の読み取り」も、「価値把握をする段階」も、**振り返り**に繋がる指導といってよい。

道徳の時間は、より高められた価値に照らして、今の自分は、どうであるか一人ひとりの児童生徒が「自分を深く見つめる時間」である。自分がしていたこと、考えていたこと、感じていたことを見つめ、自分がどういう人間であり、どういう過ごし方（生き方）をしているか振り返り、自分自身に正面から向かい合う時間である。

その「振り返り」が、道徳の時間に、ほとんど位置づいていなかったり、あっても数分程度だったりでは、それは、道徳の時間の目標から外れているということになる。

そこで、本稿では、振り返りのあり方について、考えていきたい。

1 振り返りについて

振り返りとは、本時学習で得た、より高い価値に照らして、今の自分はどうかを、深く見つめることである。

よく「**今までの自分**」を振り返るということがいわれているが、かなり以前の自分を含めた振り返りではなく、「**今の自分**」を振り返ることが望まれてくる。

「今の自分」を振り返るには、各指導段階で自分自身の問題として意識していることが重要である。また、学級内一人ひとりの児童生徒の多様な考えや感じ方に出会うことも必要となる。

2 振り返りを充実させるために

(1) 学習の総合化を

イ 総合化とは

道徳教育の日常化といってよい。日常の教育活動の中で、道徳的な問題についての意識を高めておくことである。そして、その高められた問題意識を、「道徳の時間」に生かしていくのである。

「振り返り」で一人ひとりの児童生徒が自らを深く見つめるためには、「学習の総合化」を通して、次の点が前提条件となる。

- ・問題意識が高まっていること。
- ・導入において道徳的な問題を解決しようとする意欲が高まっていること。
- ・課題解決の手がかりとなる資料を通して、価値把握がしつかりできていること。
- ・自分を振り返る視点が明確になっていること。

ロ なぜ総合化

「導入」の段階を例にして述べると、導入は自分の問題として、本時学習する課題を意識する段階である。例えば、体験活動から学んだこと・地域の行事・アンケート調査の結果の資料・問題場面・関連する他教科の内容、の提示や掲示をする等、日常の教育活動から動機付けや関連付けを図り、問題意識を高める。

導入段階ばかりではなく、展開前半、価値把握、振り返りの各段階でも、総合化によって、「道徳意識の積み重ね」(連続性)を深め、ふくらませていくことが大切となる。児童生徒の「このままでいいのか」「こうありたい」という意識を「道徳の時間」に、活用していくことが指導内容の充実につながっていくのである。

ハ どのような場から学習の総合化を図るのか

日常の教育活動全体から図る。

関連した道徳の時間、教科等、総合的な学習の時間、特別活動、行事、掃除の時間、朝の会、帰りの会、昼休み等で児童生徒が経験した場面・状況の中で高まった問題意識を各段階(導入→学習課題→価値の追求→価値の把握→振り返り)で、意図的に活用することが大切である。

(2) 「語り合う」姿を

道徳の時間の話し合いは、一つの結論を導き出すためや、相手を説得するためではなく、ある一定の価値観を伴った話に触れながら、より確かな価値に気づき、それに対して、今の自分はどうか、語り合いながら、振り返るのである。

教師主導の一問一答で進められる授業展開は、極力避けたい。道徳の時間は学級内の友だちとの語り合いで、様々な価値観に出会うことが大切となるからである。

特に、振り返りの段階で、友だちと自分の考えを比べ、自分の体験とからませて語ることが大切になる。振り返りで、自分の考えを語りながら、友だちと似ている点、友だちと違った点から、自分の考えを修正する等、自分自身をさ

らに深く見つめることが大切となる。

教師の指導としては、児童生徒の応答をさらに掘り下げたり、共通の場に広げたり、思考の観点を切り替えたりする切り返しの発問を行うことが重要となる。それが、一人ひとりの児童生徒が、自分自身を深く見つめながら、振り返っていくことに繋がる展開となっていくからである。

3 振り返りで留意すること

(1) 価値把握をしっかり行う

「価値把握」とは、資料について考えることにより、「なるほどこういう考えが大切なんだ」と、ねらいとするより高い価値の意味をはっきりつかむことである。

価値把握した部分を、囲みや色チョークを使っての板書によって、強調し確認すること等も大切である。確認したことを基にして、自分自身を振り返ることに繋げていくのである。

(2) 決意表明を避ける

よくある振り返りに「これからは、こうしたいと思います。」と、児童生徒が語る姿がある。いわゆる決意表明をすることがある。しかし、これは出来るだけ避ける指導を心がけたい。

決意表明は、導入の浅い見つめの段階でも、知識としてあれば出来るものである。それより自分自身をより深く見つめていくことが、求められる。

(3) 第三者で物言いをしない

資料に対して、児童生徒の発言が終始第三者の立場に留まっているのではなく、「私にとっては〇〇のこと」という自分自身の問題となっていることが大切である。

特に、「振り返り」の段階では、発言が第三者での物言いににならないよう、今の自分という点を強調する指導が必要である。

(4) ワークシートにまとめて発表するだけにはしない

展開後半で、ワークシートに書かせて「振り返り」をする形は、書くことで自分の考えを整理し思考を深める点では、有効である。

しかし、次の点について、十分配慮して行う必要がある。

- ・児童生徒の書く力に個人差があり、限られた時間内で全員が書くことが難しく、書き終わった児童生徒のみの発表となる可能性がある。
- ・書いたことを発表するだけになってしまい、友だちの考えを聞いて自分を見つめ直すという、「振り返り」で大切な深まりがあまり見られなくなってしまう。
- ・書くという作業で時間が使われ、友だち同士が語り合いながら、振り返るという時間が限られてしまう。

4 実践事例を通して (授業記録を主に)

- 1 学年・組 第○学年○組○○名
- 2 主題名 郷土を愛する心 4ー(7)
- 3 資料名 第二の故郷 (ふるさと) (東京書籍)
- 4 主題設定の理由 (省略)
- 5 本時のねらい
郷土や我が国の文化が今あるのは、先人やお年寄りの、郷土や我が国に対する思いや努力によるものである。その思いや努力を継承していくことにより、郷土や我が国がよりよく発展していくことがわかり、その発展のために尽くそうとする態度を養う。
- 6 展開 (省略)

授業記録 (※振り返りの部分のみ)

T : 教師 C : 児童

ねらいとする価値の把握 ※板書
住んできた人たちの努力の上に今があるから、自分も進んで努力して、よい方向に努力すると、みんなが仲よく、平和な町、郷土、国になる。

(この価値把握の上で)

↓

- T 14 今のあなたは、私たちのまち、郷土、国をいいなあ、好きだなあと思っているだけでなく、良い方にしていこうと進んで努力しようという考えで、何かしていませんか？
- C 35 お祭りや、盆踊りに参加していた。お祭りは楽しいけど、別に自分たちのまちのことを考えてなかった。
- C 36 ぼくも同じで、自分たちのまちのこととか、まちのために努力しようとか考えていなかった。
- C 37 ぼくはあるけど・・・小さいことかもしれないけど・・・。ゴミ拾いをやったら楽しかった。きれいにしたらすっきりした。
- C 38 ぼくは、なんとなくやった。別にまちのことを思っていないなかった。でも、ごみひろいをやったらなんか楽しかった。
- C 39 ごみひろいやって楽しかった。
- C 40 気持ち悪いごみがあった。中味が入っているペットボトルとか、雑誌とか紙が濡れていて気持ち悪かった。まちをよくするためにやろうとまでは考えていなくて、決まったことだから仕方なくやった。これからもあまり進んではやれない気がする。
- C 41 僕も気持ち悪いごみがあった。でも、自分から地域の掃除や草取りをした。深く考えていなかったけど、進んでやると、気分が良くなる。

- C 42 そこまでは、考えていなかったけれど、進んでやると気分がよくなる。
- C 43 私も、拾ってきれいになったとは思っ
(C 40) た。少し気分がよかった。積極的にやる気持ちが大切なことが少しわかった。
- C 44 家で掃除をしていて、別の日に、家の周りの掃除をした。きれいな町になるといい。
- C 45 拾ったごみも分別したし、いつも家でも分別して気をつけている。きれいな町になるといい。
- C 46 市の分別なら、ぼくもやっている。
- T 15 市の分別の取り組みも、郷土や地球をよくしていくための努力なんだよね。
- C 47 母が近所の人たちと空き缶やガラス拾いをしているから、私も手伝っている。
- T 16 どんな気持ちがあったのかな。
- C 48 小さい子が怪我しないようにということとは思って手伝った。
- T 17 町だけじゃなくて、日本の他の地域や国に対してしたことはあった？
- C 49 富士山に、空き缶やごみを捨てる人がいて困っているから、今度、家族で富士山に行くけど、僕たちはごみを持って帰ることにしている。体験活動でもやったけど。

(以下省略)

「考察」

C 38は、大好きなC 35の影響を受けやすい。C38の「そこまで町のことを思っていなかった」と振り返った点は、C 35の影響もあったと考える。ごみひろいをして楽しい気持ちになったことについては、C 37の振り返りを聞いて自分を見つめることが出来た。

C 37～C 44は、学習の総合化の中で、資料の中の美人林に地域でチップを撒いて林を保全していることを知っていたり、身近でお年寄り

の方々が朝掃除をしていたりしていることを知っていた上での発言をしている。

C 40(C 43)は、C 41・C 42の話聞き自分をさらに見つめ直している。

T 17で、本時のねらいにせまるため、郷土への視野を日本まで広げて考えさせようとして「町、郷土、国」と常に言い直しながら発問したが、実態として普段そこまで考えたり取り組んだりすることはほとんどないので振り返りは難しかった。

しかし、ここで視野を広げておくことによって、夏休みに地域や日本各地で体験する機会があると思うので、意識して欲しいと考えた。かろうじてC 49が場面を広げて見つめることができた。そのことが、今後の体験の中でも、児童生徒の**見方・考え方を広げたり、深めたりする**のに役立つと考える。

5 深い振り返りをするための留意点

学級内が、お互いに何でも話したり聞いたりする雰囲気になければならない。認め合い・励まし合いが、さりげなく出来ている学級になっていることが大切で、大前提となる。

その上で、指導段階に応じた深い振り返りをするための留意点を、次のようにまとめた。

日常の指導で	<p><話し方と聞き方の習慣づけ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手を意識させる。 ・自分の考えと相手の考え比べて聞くようにする。 <p>(相違点・質問・感想)</p> <p><語り合える雰囲気作り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自信を持って話せる学級の雰囲気を作る。 ・一人ひとりの発言を大切にする姿勢を教師から示す。 <p><振り返る習慣づけ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教科・特活等の活動後にこまめに振り返る時間を設ける。
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会や係等の取り組みの様子を掲示する。

<p>学習の総 合化で</p>	<p>＜問題意識を高める＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事（体育大会・自然教室・合唱コンクール・ボランティア活動）と関連付ける。 ・総合的な学習の時間と関連付ける。 ・委員会・当番・係活動と関連付ける。 <p>＜自分の見方・考え方を見つめる＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの思いを伝えあう機会を作り、友だちの見方・考え方を知る。
<p>道徳の時 間の中で</p>	<p>＜学習の総合化を生かした導入＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題場面の提示をする。 ・自分自身の問題として意識する。 <p>＜確実な価値把握＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問構成（主発問と補助発問切り返し）を吟味する。 ・板書の整理（強調）をする。 ・資料のキーワードやキーセンテンスを活用する。 ・登場人物に自分の思いを重ねる。 ・ねらいとする価値の意味を、はっきりつかむ。 <p>＜振り返り＞</p> <p><u>主発問</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業でまとめたことについて、今の自分はどうか。 <p><u>意図的指名</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんは〇〇と思ったけどBさんはどうですか。 ・Cさんも、何か考えがありそうだね。 <p><u>担任の共感または肯定的なことばかけ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるほど、そうだったんだね。 ・Aさんは、自分の考えに、Bさんの考えを聞いて、プラスしたんだね。 <p><u>全体へつなげたり深めたりする</u> (切り返しや児童生徒同士の語り合いを)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんは〇〇の考えだけど、皆はどうですか。 ・今の話を聞いて、皆はどうですか。 ・Bさんの話を聞いて、皆が最初に考えていたことと違いは出てきましたか。

<p>・友だちの話を聞いて、自分に生かせることはありませんか。</p>

まとめ

道徳教育に関して、「価値の押し付けではないか」の声を耳にすることがある。非常に残念なことである。

なぜなら、道徳教育は、決して価値を押し付けるものではないからである。むしろ、価値や生き方についての自覚を深めることを目標としている。児童生徒の価値の主體的自覚が重視されているのだ。

道徳の時間は、児童生徒一人ひとりが語り合い、多様な価値観を出し合い、より高い価値に気づいていく。そして、より高い価値に照らして、今の自分を振り返り、深く見つめることにある。

本稿のテーマ「振り返り」は、児童生徒一人ひとり道徳的価値、そして、人としての生き方についての自覚を深めるものに繋がっていくものである。

私たちは、道徳の時間の充実に向け、とり分け「振り返り」のあり方についての指導を充実させていくことが大切である。

参考文献

中学校学習指導要領解説 道徳編 文部科学省
横浜市小学校道徳教育研究会 会報50号
横浜市教育課程研究委員会道徳専門部会冊子